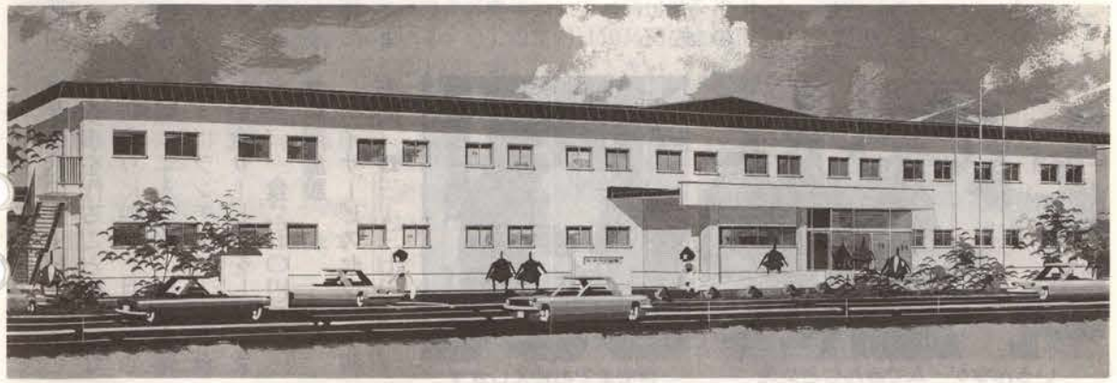
平成6年
4月オープン

留萌地域人材開発センター

21世紀のまちづくりに向け皆さんと
皆さんの企業のパワーアップを支援します。



留萌地域人材開発センターは地域の、明日を創ります。

明年4月「道立旭川高等技術専門学院留萌分校（留萌市南町1丁目17）」の施設を北海道から引継ぎ、「留萌地域人材開発センター運営協会」を開設することと致しております。当センターは、留萌地域・道北地域にとって初めての試みでありますが、皆様の多様なニーズに基づき、企業・従業員の方々を対象とした各種能力開発事業、住民の方々を対象とした講座・講習等を「ゆとり」「集う」「楽しく遊ぶ」をモットーに実施し、「ひとづくり」を目指して開設するものです。皆様方お一人、お一人の参加が、管内全業種・団体を網羅した運営協会を設立し、皆様方が参加しやすいセンターを目指します。

センターではシンボルマークと愛称を募集しております。是非応募して下さい。

シンボルマーク募集

●テーマ●
留萌管内の恵まれた自然景観をモチーフとした、明るく翔く姿を象徴出来るもの。

●規　格●
マークの型は自由です。
色は5色以内

センターの愛称募集

●テーマ●
明るく・発展性のあるネーミング

●規　格●
12字以内

●その他●
応募者は留萌管内9市町村の住民とします。
応募者の年齢及び応募点数の制限はありません。

●募集期間●
平成5年10月1日から10月31日まで

提出先及び詳しくは
〒077留萌市幸町1丁目11番地　留萌市役所商工観光課内留萌地域人材開発センター設置準備室　☎（0164）2-1801

「けん銃」・「白い粉」の撲滅にご協力を!!

10月は全国一斉の「薬物乱用事犯取締強化月間」、また10月、11月は「けん銃特別取締り期間」です。

(1) けん銃による犯罪が多発し、国民の平穏な日常生活に対して、重大な脅威となっております。

(2) 覚せい剤や麻薬など「白い粉」の汚染が拡大し、乱用者も主婦や学生にまで及んでいます。

税関では、他の取締機関や世界各国の税関などと協力して日夜水際での取締りを行っております。

「けん銃」・「白い粉」に関して目にしたり、耳にされた情報を、たとえさ細なことでも結構ですので、税関へ通報して下さい。

ご協力をお願いします。

留萌税関支署
☎2-0467

留萌いま・むかし　第82話

草創期の留萌の海運業

福士広志
海のふるさと館学芸係長

留萌川の河口は江戸時代以来、多くの商船が行き交い留萌の産物を積込日用雑貨や漁撈用具など荷降を活発に行っていた。当時は弁財船という五十トンくらいの和船が河口に入り荷役作業が行われた。

明治十年代にはこの船に西洋型の帆船や蒸気船も加わり、年間百隻くらいの船でにぎわったという。当時は伝馬船という船で船と陸上を行き来していた。しかし、留萌が発展すると共に留萌川の河口にやってくる船は大型化し、取り扱う貨物の量も飛躍的に増えていった。

大型の船は留萌川の河口には直接入ることが出来ず、沖に停泊し、貨物の運搬は艀（はしけ）によることが多くなった。明治三十二年には小樽～天塩間の定期船北見丸（七百トン）が就航し、月に二回は留萌に寄港するようになった。

このような船の大型化と貨物取扱量の増加はそれを取り扱う専門の業者を誕生させた。明治三十五年になると三井物産留萌漁業部で支配人をしていた村田熊吉が、日本郵船、藤山汽船と提携して村田回漕店を、対馬園江が増毛の㊀本間汽船部と共同で対馬回漕店を始めた。これが留萌の海運業始まりと言えよう。

留萌港の商船の群れ

対馬、村田両回漕店は主に日本海側の定期航路の船（三百トン級）で海運を行い、大和田の石炭、農海産の物等の船積みが盛んに行われた。

この他に荷役業者としては㊥佐藤艀部と瀬川艀部があった。当時の荷役の主なものは大和田の石炭、日用雑貨などである。当時大和田の石炭は年間一万トンの産出があり、軽便鉄道（馬によるトロッコ運搬）で大和田から河口近くの貯炭場に運ばれ艀で河口の外に停泊中の汽船に運ばれた。これを主に扱ったのは㊥佐藤艀部であった。瀬川艀部と対馬回漕店は雑貨の荷役が主であった。

明治四十三年からは留萌港の築港工事が本格化し、人口も増え、取り扱う貨物の量も飛躍的に増えていき、留萌の海運業界も好景気にのって一段と飛躍していくのである。大留萌建設事業の始まる前の年大正十年には対馬、村田の両回漕店が合併し合資会社村田回漕店を設立し、築港完成後の海運業界への準備にとりかかっている。